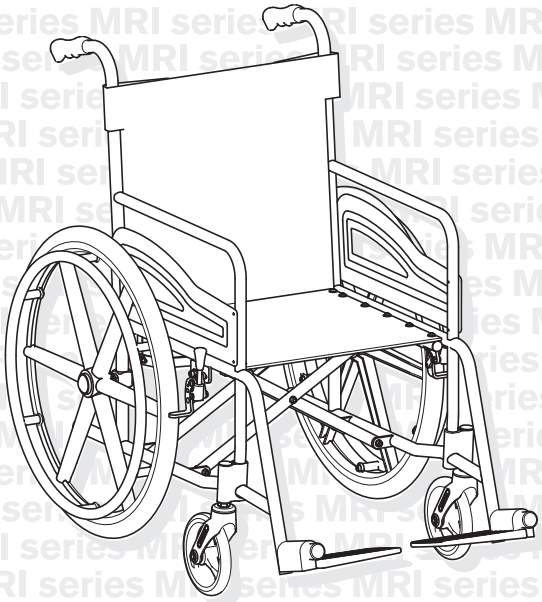
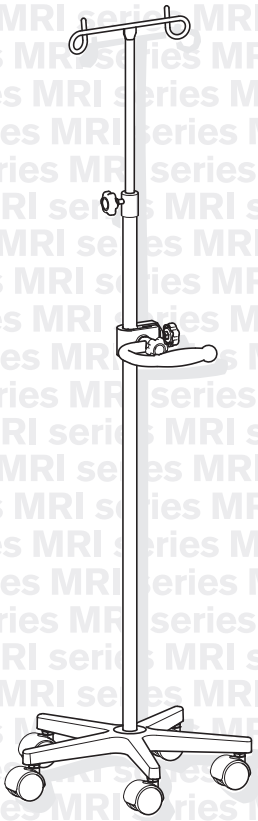
マツナガのMRI用品

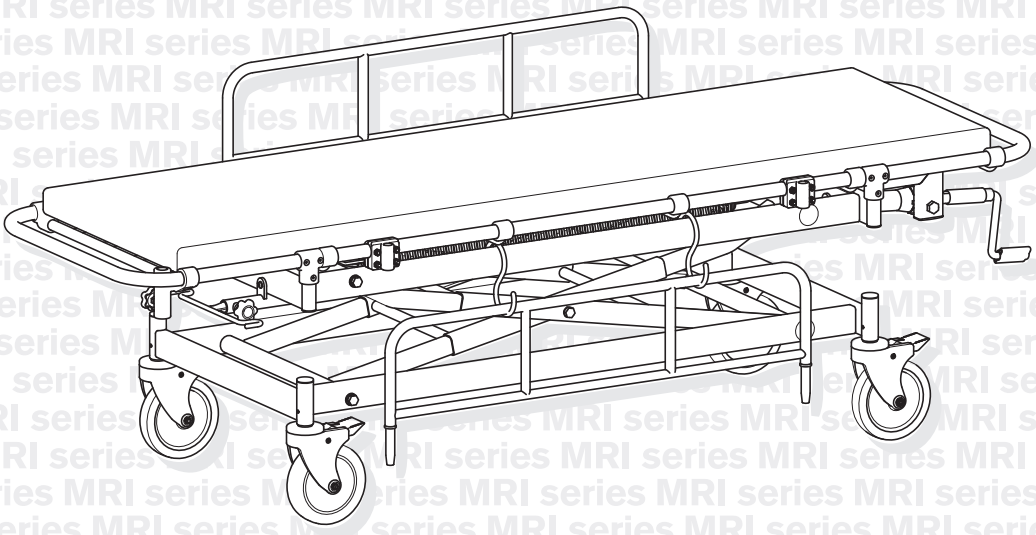
MRI用シリーズ

取扱説明書

保存用
保証書付







愛の輪
愛のいず
MATSUNAGA

2012.05

このたびは、(株)松永製作所の製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。
この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意事項や正しい使い方が説明されています。
ご使用になる前には、必ずお読みください。
また、保証書(裏表紙)が付いておりますので紛失しないように大切に保管してください。安全にご使用していただくために、点検·記録表が付いておりますので、ご自身·お買い求めの販売店(有料)等で定期的に点検をしていただくようお願いします。

製品が、身体に合わない状態ではご使用にならないでください。
健康をそこなう恐れがあります。そのような場合は、購入されたお店、かかりつけの病院にご相談ください。

付属品

以下の物が同梱されているか、確認してください。

取扱説明書

●万一、不足品がありましたら、すぐにお買い上げの販売店、または弊社にご連絡ください

●お買い上げの製品は改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
●ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または直接弊社までお問い合わせください。

ご使用前に

出荷時には検査をしておりますが、ご使用前に次のご確認をお願いいたします。

○ 箱が破損したり、濡れたりしていないか。
○ 各部の破損·キズ、フレームのゆがみ、ボルト·ナットや部品の脱落はないか。
○ 付属品はすべて揃っているか。

もし異常があればご使用にならず、すぐにお買い求めの販売店または、弊社までご連絡ください。

目　次

安全にお使いになるためのご注意 …… 2
機種別寸法一覧 …… 4
各部名称 …… 4
車いすのご使用方法 …… 6
拡げ方 …… 6
折りたたみ方 …… 6
乗り方・降り方 …… 7
動かし方 …… 8
介助の仕方 …… 9
外出時の注意 …… 10
車いすの各部機能の使用方法 …… 11
駐車用ブレーキ …… 11
フットサポートの高さ調整 …… 11
ストレッチャーの各部機能の使用方法 …… 12
クランクハンドルの収納方法 …… 12
ブレーキの使用方法 …… 12
高さ調整 …… 12
サイドレールの使用方法 …… 13
ガートル棒の取り付け方法 …… 13
ガートル架の各部機能の使用方法 …… 14
グリップの高さ調整 …… 14
グリップの角度調整 …… 14
ガートル棒の高さ調整 …… 14
その他の注意 …… 15
もしこんなトラブルが発生したときは …… 16
お手入れの方法 …… 16
保管場所・保証・アフターサービス …… 16
点検シート …… 17

安全にお使いになるためのご注意

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

お守りいただく内容の説明

この表示は、してはいけない「**禁止**」内容です。

この表示は、必ずしていただく「**強制**」内容です。

警告

（禁止）

してはいけない

■故障、異常のあるときは、直ちに使用を中止してください。
事故、転倒･転落によるケガ等の原因となります。

■タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動き、事故等の原因となります。また、タイヤのパンクの原因となります。

■フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
車いすがバランスを崩し、転倒･転落事故等の原因となります。

■車いすのシートの上で立ちあがらないでください。
転倒･転落事故等の原因となります。

■人を乗せて手押し移動のストレッチャー以外の目的に使用しないでください。
ストレッチャーの損傷や事故や転倒によるケガをする原因となります。
製品の強度、品質については手押しの一般平坦床面使用です。また身長180cm、体重90Kg以上の人は使用しないでください。

■改造をしないでください。
改造によって部品の破損、脱落などで安全性が低下して事故、転倒の原因となります。

（強制）

必ずしていただく

■車いすに乗る･降りる前やベッドへの移乗時には、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。
車いすが動き、転倒･転落事故等の原因となります。

■側溝の格子蓋や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者に支えていただいて行ってください。
車輪が溝にはまって、転倒･転落事故等の原因となります。

■ストレッチャーに人を乗せ降ろしの時は、必ずブレーキをして固定を確認してください。
ストレッチャーが固定されていないと転倒、転落してケガをする原因となります。

■ストレッチャーに人を乗せる場合はマットレス前後中央から等分に体重が分散するように乗せてください。
ストレッチャーのマットレスの片端に体重がかかるような乗せ方をして移動すると走行バランスが悪いため転倒、転落してケガをする原因となります。

■ストレッチャーに人を乗せた時はサイドレールを左右両側とも上にした状態にして運搬移動をしてください。
ストレッチャーのサイドレールを下げた状態で運搬移動すると転倒、転落してケガをする原因となります。

注意

（禁止）

してはいけない

■バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。
車いすが不安定になり、転倒･転落事故等の原因となります。

■車いすを拡げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
パイプに手や指を挟んでケガをする原因となります。

■タイヤを持って車いすを操作しないでください。
駐車用ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。

■スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。
摩擦で手にケガをする恐れがあります。

（禁止）

してはいけない

■走行中、身体を乗り出さないでください。
バランスが不安定になり、転倒·転落事故等の原因となります。
■車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。
手や指をはさんで、ケガをする原因となります。
■バックしながら急停止しないでください。
転倒·転落事故等の原因となります。
■凹凸のある路面では、前かがみの姿勢で使用しないでください。
バランスを崩し、前に転倒·転落事故等の原因となります。
■階段、段差、溝、長い昇り、降り坂での使用はしないでください。
ストレッチャーに乗っている人や介助している人がケガをする原因となります。
■ストレッチャーでエレベーターを使用する場合はドアーの隙間に車輪を落とし込まないでください。
落ち込んで無理に脱出しようとするとエレベーターやストレッチャーを破損して乗っている人もケガをする原因となります。介助してもらって脱出してください。
■バックサポートパイプ（グリップ）のみで、キャスタを上げないでください。
バックサポートパイプが曲がったり折れたりして、転倒·転落事故等の原因となります。
■スピードをつけて、段差を乗りこえようとしないでください。
使用者が車いすから転倒·転落し事故等の原因となります。
■車いすを横向きに倒して、上に物を置かないでください。
重みで車輪フレームが曲がったりして、故障の原因となります。
■火気の近くに置かないでください。
タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。
■急ブレーキをかけないでください。
車いすに乗っている方が前方へ転倒する恐れがあります。
■すき間がある状態で使用するとフットサポートが外れケガをすることがあります。
■ガートル架をガートル架以外の目的で使用しないでください。
故障の原因となります。
■ガートル架のグリップ部を押手以外の目的で使用しないください。
グリップの高さが急に変わり、転倒やケガ等の原因となります。
■グリップが固定溝にはまっていない状態で使用するとグリップの角度が急に変わりケガをすることがあります。

（強制）

必ずしていただく

■車いすを拡げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。
パイプが曲がったりして、転倒·転落事故等の原因になります。
■車いすを折りたたむ際には、バックサポートのポケットの中に物が入っていないことを確認してください。
ポケットの中の物が破損したり、車いすの故障の原因となります。
■車いすの乗り降りは、路面の平坦な場所で行ってください。
車いすが動いてバランスを崩し、転倒·転落事故等の原因となります。
■坂道を下るとき介助者は、下り坂の下側に立ち、確認しながら後ろ向きにゆっくりと走行してください。
前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒·転落事故等の原因となります。
■側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャスタが落ち込まないように注意してください。
車いすが急に止まり、使用者の体が前方に傾き、転倒·転落事故等の原因となります。
■移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。
■フットサポートに、足が持っているか確認して走行してください。
■フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。
路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車いすが止まり、転倒事故等の原因になります。
■フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。
フットサポートが脱落し、事故、ケガ等の原因になります。
■クランクハンドルを使用しない時は、必ず折りたたんでおいてください。
壁を傷つけたり、クランクハンドルの故障の原因となります。
■ストレッチャーの高さ調整後は、クランクハンドルを折りたたんでください。
壁の損傷や故障の原因になります。
■ガートル棒を取付けた時は、必ずガートル棒が固定されているか確認してください。
ガートル棒が急に落下し、ケガ等の原因となります。
■使用後は、ガートル棒をガートルケースに戻し固定してくさい。
壁等を傷つけたり、故障の原因になります。
■点検、整備、清掃をしてください。（使用前点検）
1.各部のボルト、ナットの緩み　2.フレーム、パイプの変形　3.ブレーキのロック　4.キャスタの回転
5.マットのキズ、破損 6.清掃と可動部分の注油　7.異常音、違和感はないか
■ガートル架の各部調整後は、各調整ノブボルトが確実に締まっているか確認してください。
ケガ等の原因となります。
■ガートル棒の高さ調整を行う時は、必ずガートル棒を持って行ってください。
ガートル棒が自重で落ち、ケガ等の原因となります。

機種別寸法一覧

MRI用車いす

機　種	キャスタ（インチ）	大車輪（インチ）	座　幅（mm）	前座高（mm）	後座高（mm）	アームサポート高（mm）	バックサポート高（mm）	フット長（mm）	座シート奥行（mm）	全　高（mm）	全　長（mm）	全　幅（mm）	重　量（kg）
MR-3TMG	6	22	400	430	400	225	420	365	400	1,010	880	610	13.9
MR-3T	6	22	400	430	400	225	420	365	400	1,010	880	645	13.4

※フット長:フットサポート･シート間距離
※フット長は一番短くした時の長さです。
◎改良のため予告なしに仕様を変更する事があります。

MRI用ストレッチャー

機　種	全　高（mm）	全　長（mm）	全　幅（mm）	重　量（kg）	マットレス寸法		
					全　幅（mm）	全　長（mm）	厚　み（mm）
MR-UD-3TMG	540～925	1,900	595	40.0	500	1,690	50
MR-UD-3T	540～925	1,900	595	37.8	500	1,690	50

◎改良のため予告なしに仕様を変更する事があります。

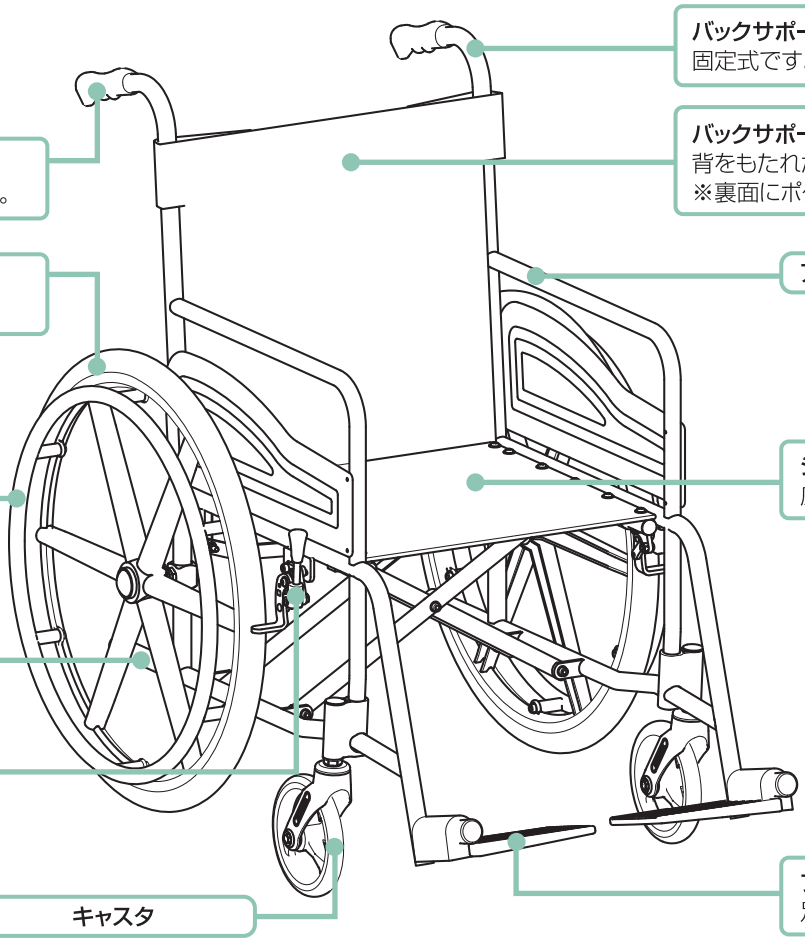
MRI用ガートル架

機　種	全　高（mm）	全　長（mm）	全　幅（mm）	重　量（kg）
MR-IG-3TMG	1,430～2,365	433	433	4.6

※耐荷重は2.0kgまでです。
◎改良のため予告なしに仕様を変更する事があります。

各部名称

MRI用車いす



バックサポートパイプ
固定式です。

バックサポート
背をもたれかけるところです。
※裏面にポケットがあります。

アームサポートパイプ

シート（座）
座るところです。

フットサポート
足をのせるところです。

グリップ
介助者が押すために使用します。

駆動輪
駆動を伝える車輪です。

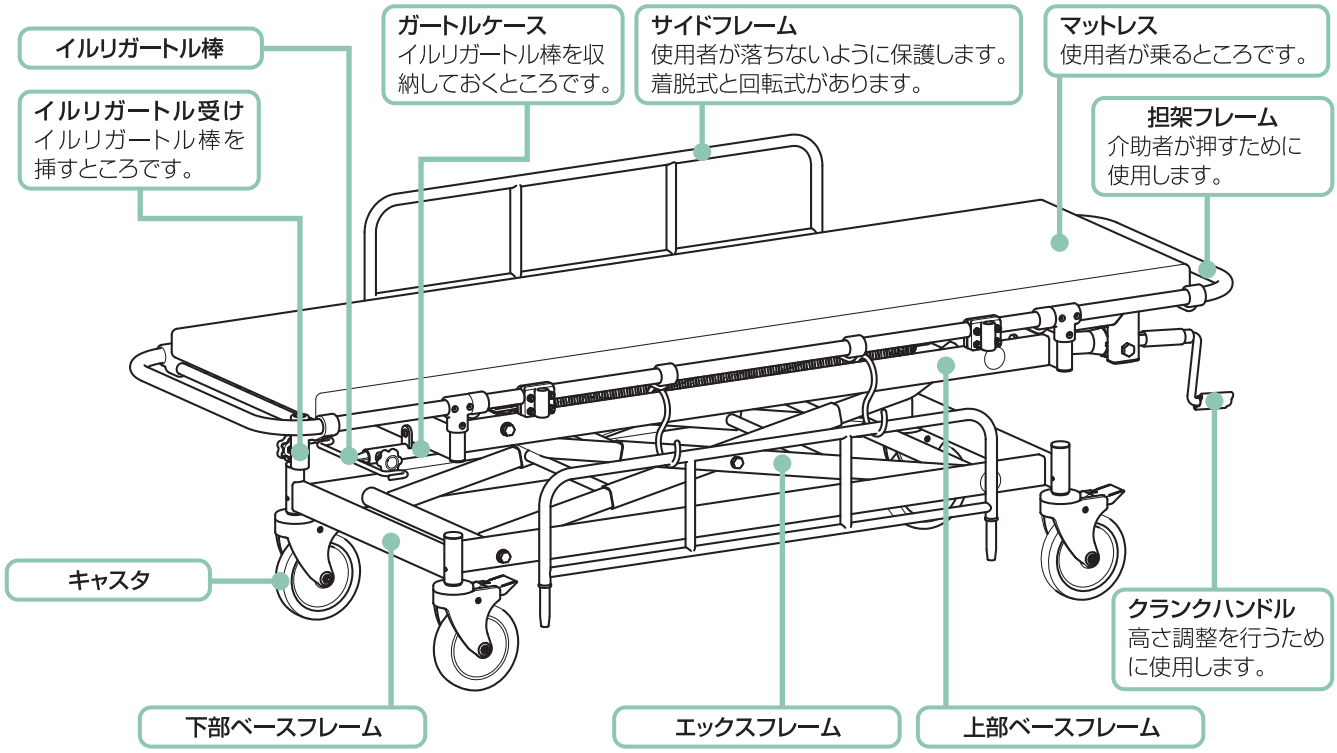
ハンドリム
自走用で駆動輪を操作するとき、使用します。

ティッピングレバー
キャスタを上げたりするため介助者が足で踏むとき使用します。

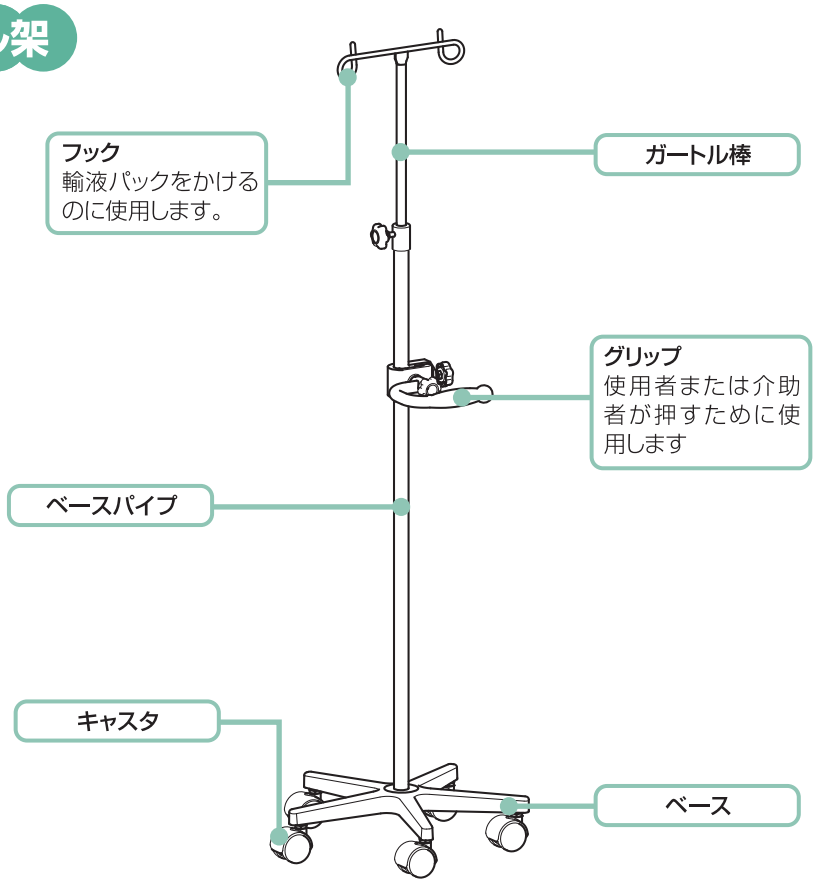
駐車用ブレーキ
乗り降りの時、車いすが動かないようにするために使用します。

キャスタ

MRI用ストレッチャー



MRI用ガートル架



車いすのご使用方法

拡げ方

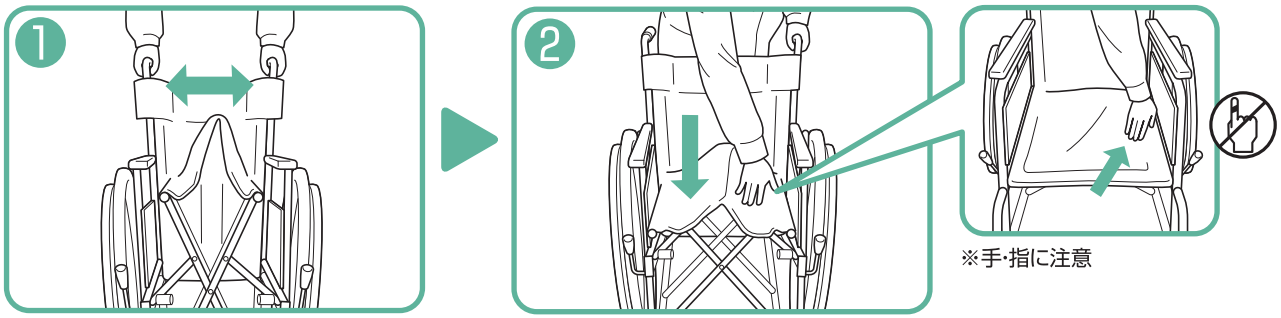
⚠ 注意

●バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。
（車いすが不安定になり、転倒･転落事故等の原因となります。）

してはいけない

❶車いすの後方に立ち、左右の
グリップを持って両側に拡げます。

❷片側のグリップを手で持ち、
シートを手で下に押し下げると、
車いすが拡がります。



※手･指に注意

⚠ 注意

●車いすを拡げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
（パイプに手や指を挟んでケガをする原因となります。）

してはいけない

⚠ 注意

●車いすを拡げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。
（パイプが曲がったりして、転倒･転落事故等の原因になります。）

していただく

折りたたみ方

❶フットサポートを矢印方向に
回転させて上げます。

❷シートの前方と後方の中央を
同時に持ち上げます。

❸左右のグリップを持ち内側に
たたみます。

⚠ 注意

●車いすを折りたたむ際には、バックサポートの
ポケットの中に物が入っていないことを確認してください。
（ポケットの中の物が破損したり、車いすの故障の原因となります。）

していただく

乗り方・降り方

⚠ 警告

●車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。
（車いすが動き、転倒・転落事故等の原因となります。）

していただく

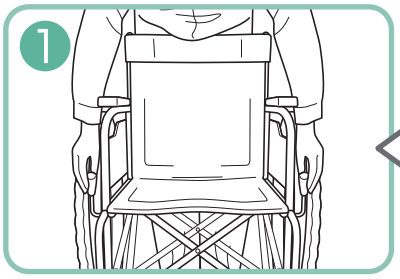
⚠ 注意

●車いすの乗り降りは、路面の平坦な場所で行ってください。
（車いすが動いてバランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。）

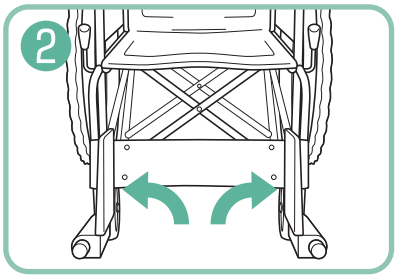
していただく

乗る時

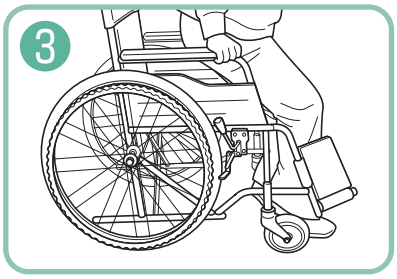
❶駐車用ブレーキを両側ロックします。



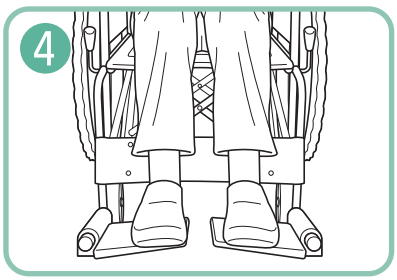
❷フットサポートを両側上げます。



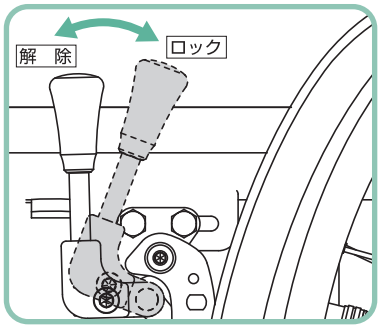
❸両手で、アームサポートを持ち
ゆっくり座り込みます。

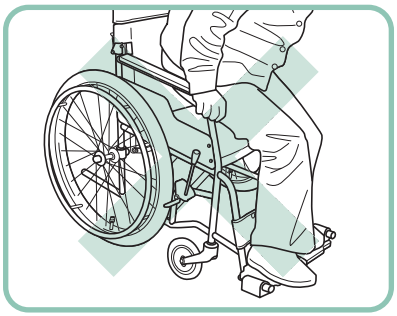


❹フットサポートに足を乗せます。



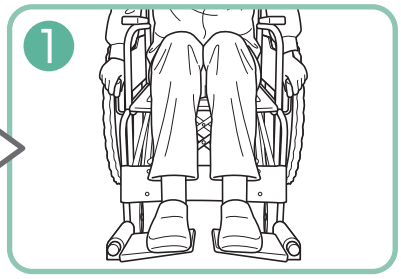
駐車用ブレーキ



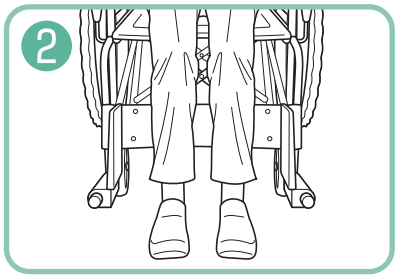


降りる時

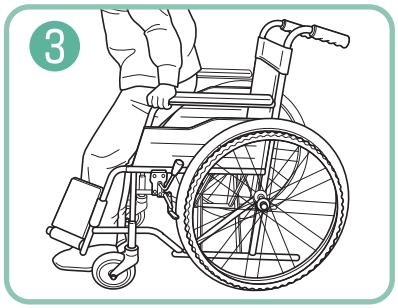
❶駐車用ブレーキを両側ロックします。



❷フットサポートを上げ、足を下ろします。



❸両手で、アームサポートを持ち
ゆっくり立ち上がります。



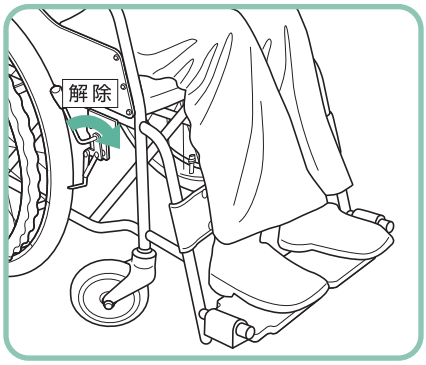
⚠ 警告

●フットサポートの上に乗って乗り込んだり、
降りるとき上に立ち上がらないでください。
（車いすがバランスを崩し、転倒・転落事故等の
原因となります。）

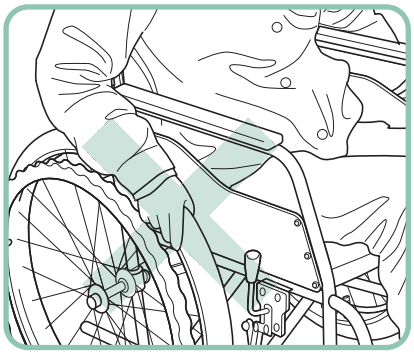
してはいけない

動かし方

駐車用ブレーキのロックを解除する。



ハンドリムを握り車輪を
回転させ移動させる。



⚠ 注意

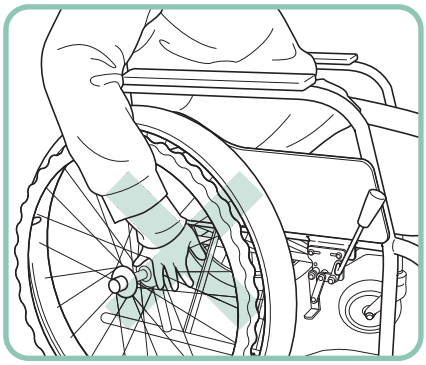
●タイヤを持って車いすを操作しないでください。
（駐車用ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。）

してはいけない

⚠ 注意

●スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。
（摩擦で手にケガをする恐れがあります。）

してはいけない
※このようなご使用をされる場合は、車いす用手袋〈別売〉をご使用ください。



⚠ 注意

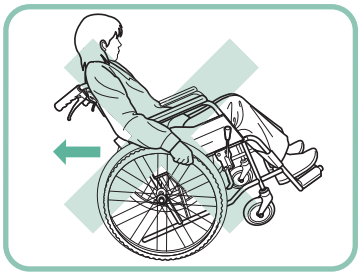
●走行中、身体を乗り出さないでください。
（バランスが不安定になり、転倒・転落事故等の原因となります。）

してはいけない

⚠ 注意

●車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。
（手や指をはさんで、ケガをする原因となります。）

してはいけない
※このような場合にはオプションのスポークカバーの使用をおすすめします。



⚠ 注意

●バックしながら急停止しないでください。
（転倒・転落事故等の原因となります。）

してはいけない

⚠ 注意

●凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。
（バランスを崩し、前に転倒・転落事故等の原因となります。）

してはいけない

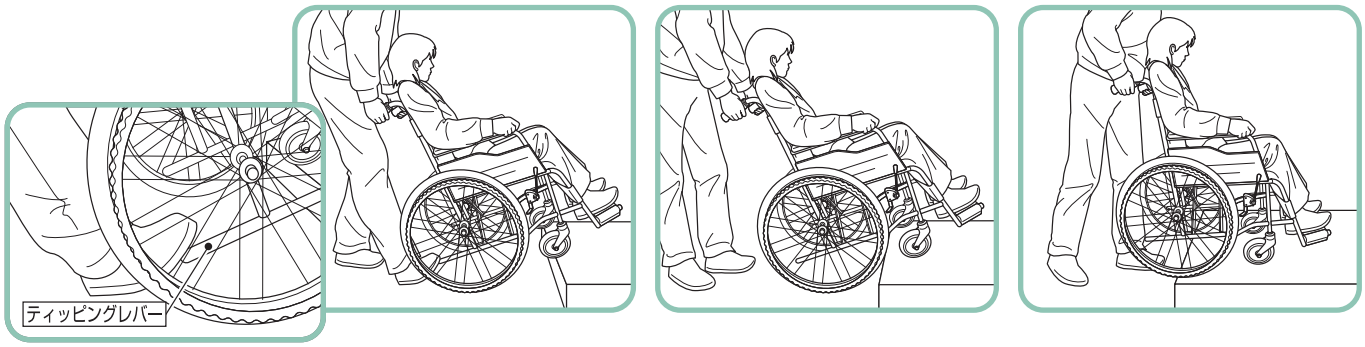
介助の仕方

次のような使用場所や環境では、危険が伴う場合がありますので、必ず介助者の方が付き添ってください。

・坂道の登り下り	・踏切の横断	・側溝の格子蓋の横断	・悪路
・電車への乗車、下車	・段差乗りこえ	・路面が片側に傾斜しているところの走行	

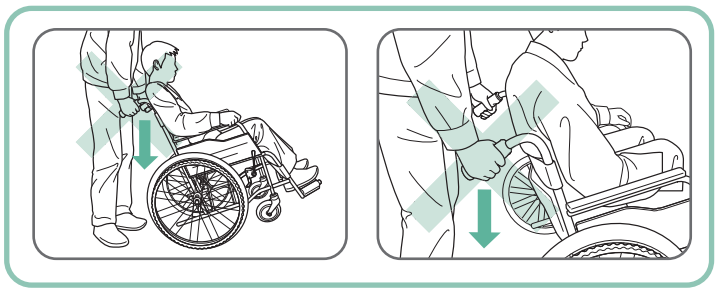
介助者援助をお願いしてください。

介助者の方は、段差を乗りこえる場合は、ティッピングレバーを踏んでキャスタを上げ、段差に乗せてから、後輪を浮かし乗りこえてください。



⚠ 注意

●バックサポートパイプ(グリップ)のみで、キャスタを上げないでください。
(バックサポートパイプが曲がったり折れたりして、転倒・転落事故等の原因となります。)



してはいけない

⚠ 注意

●スピードをつけて、段差を乗りこえようとしないでください。
(使用者が車いすから転倒・転落し事故等の原因となります。)

してはいけない

■階段などで、使用者が乗ったままの状態で、介助者に待ち上げてもらう場合

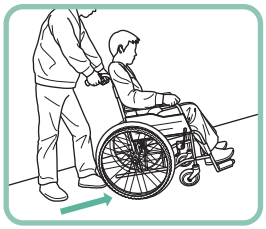
ベースフレーム・バックサポートの固定されている箇所を持って、4～5人で支えてもらってください。

外出時の注意

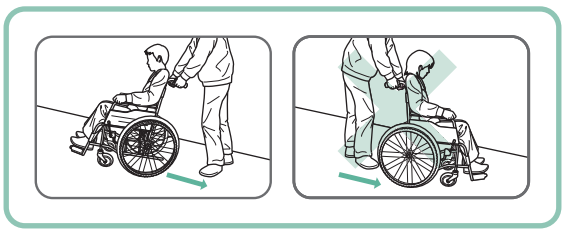
介助者援助をお願いしてください。

坂道の登り下りでご使用される場合は、必ず介助者の方に
支えていただいて行ってください。

登り坂



下り坂

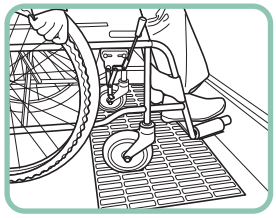


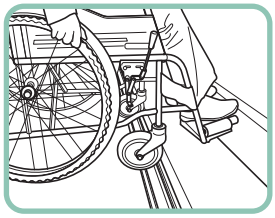
⚠ 注意

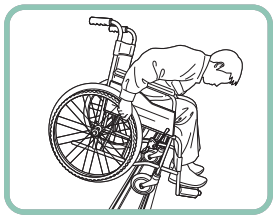
●坂道を下るとき介助者は、下り坂の下側に立ち、確認しながら後ろ向きにゆっくりと走行してください。
（前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒･転落事故等の原因となります。）

していただく

介助者援助をお願いしてください。







⚠ 警告

●側溝の格子蓋や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えて
いただいて行ってください。
（車輪が溝にはまって、転倒･転落事故等の原因となります。）

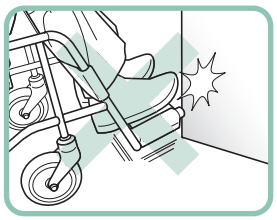
していただく

⚠ 注意

●側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャスタが落ち込まないように注意してください。
（車いすが急に止まり、使用者の体が前方に傾き、転倒･転落事故等の原因となります。）

していただく

※このような、環境条件でご使用される場合は、ワイドキャスタ（オプション）をご使用ください。



【介助者の方へ】

⚠ 注意

●移動中、つま先が障害物に当たらない
ように、確認して走行してください。

していただく

⚠ 注意

●フットサポートに、足が乗っているか確
認して走行してください。

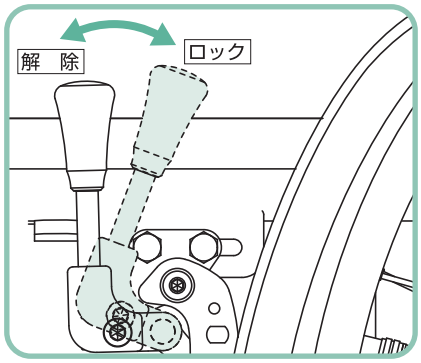
していただく

車いすの各部機能の使用方法

駐車用ブレーキ

●車いすをしっかり止める時に使用して下さい。
●ブレーキレバーを後方に引くとロックします。
●ロックした方向と反対に引くと解除します。

アルミタックル



⚠ 警告

●車いすに乗る･降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。
（車いすが動き、転倒･転落事故等の原因となります。）

していただく

フットサポートの高さ調整

対応機種:MR-3T

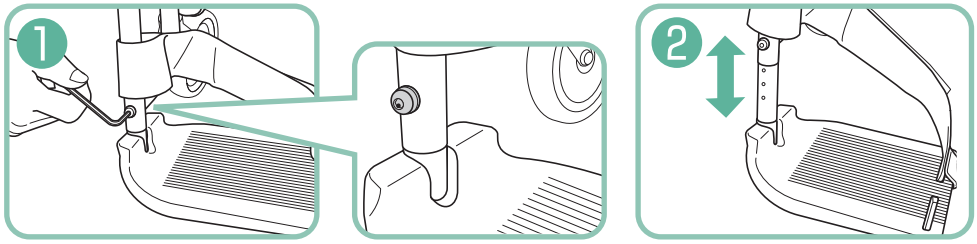
〈高さ（長さ）の調整〉

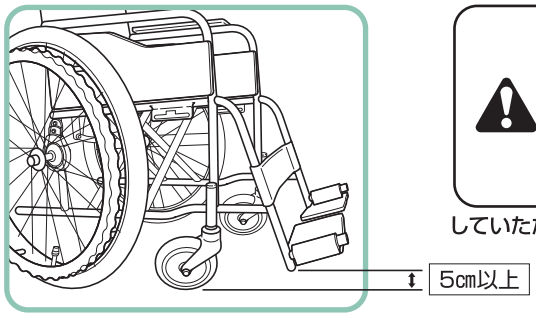
●フットサポートの高さを20mmピッチ、3段階で調整することができます。

❶対辺4mm六角レンチと対辺10mmのスパナを用いボルトとナットを外します。
（ボルトを取り外すときには、フットサポートが落ちないよう支えながら外してください。）

❷高さを調整し、ボルトとナットを締める。

※適正トルク 6Nm





⚠ 注意

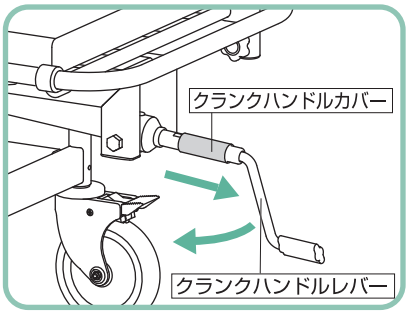
●フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。
（路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車いすが止まり、転倒事故等の原因になります。）

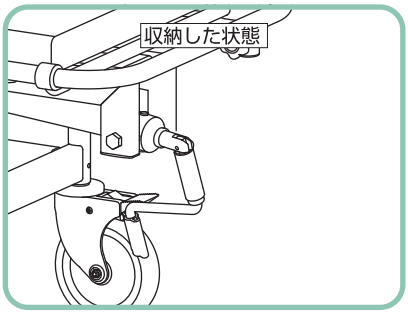
していただく

ストレッチャー各部機能の使用方法

クランクハンドルの収納方法

●クランクハンドルカバーを引きながら、クランクハンドルレバーをベースフレーム側へ折りたたみます。取り出す時は、逆の手順で行ってください。





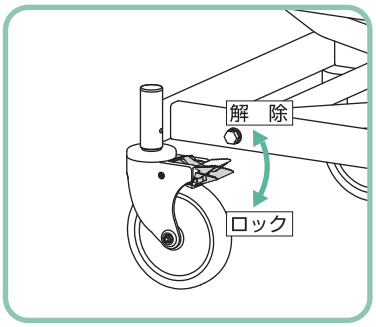
⚠ 注意

●クランクハンドルを使用しない時は、必ず折りたたんでおいてください。
（壁を傷つけたり、クランクハンドルの故障の原因となります。）

していただく

ブレーキの使用方法

●4箇所のキャスター車輪にロック装置が付いています。
●レバー部分を踏むと車輪がロックします。



⚠ 警告

●患者の乗せ降ろし、各部調整を行う時は、必ずキャスターをロックしてください。
（ストレッチャーが動き、転倒･転落事故、ケガ等の原因となります。）

していただく

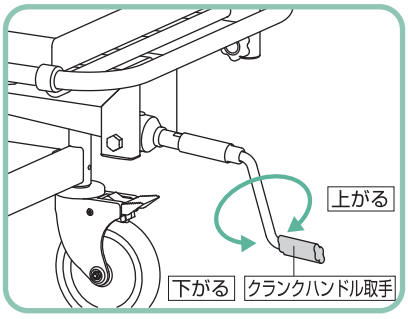
⚠ 注意

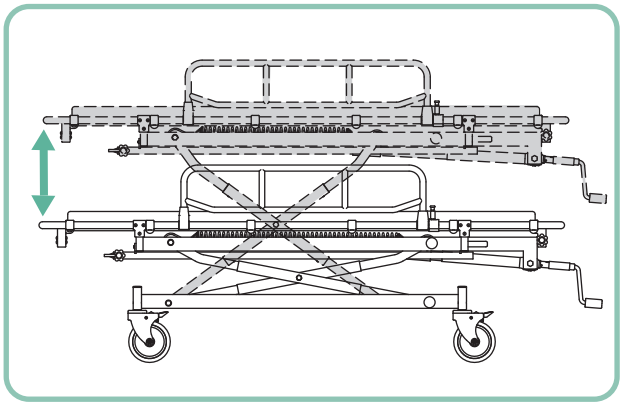
●キャスターのブレーキをロックする時は、平坦な場所で行ってください。
（ストレッチャーがバランスを崩し、転倒･転落事故等の原因となります。）

していただく

高さ調整

●使用時に合わせ、マットの高さを調整する事ができます。
●クランクハンドルを右に回すと上へ、左に回すと下へ高さが変わります。





⚠ 注意

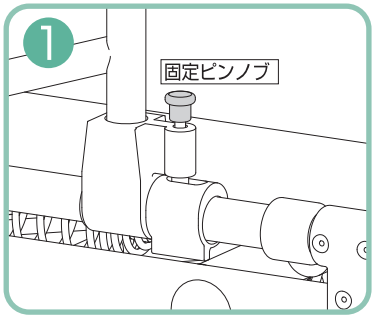
●ストレッチャーの高さ調整後は、クランクハンドルを折りたたんでください。
（壁の損傷や故障の原因になります。）

していただく

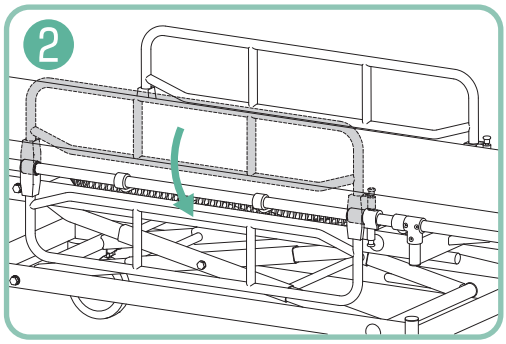
サイドレールの使用方法

回転式

❶片方の手でサイドレールを持ち、
固定ピンノブをサイドレールが
回転するまで引き上げます。

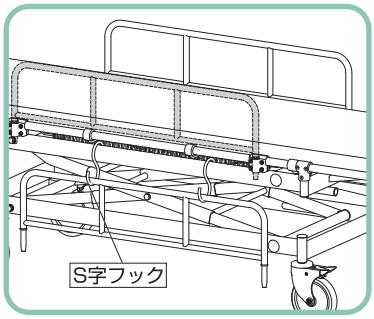


❷固定ノブピンを引き上げたまま、
サイドレールを下側へ回転させます。



着脱式

●サイドレールを上側に引き抜き、
下部ベースフレーム側の
S時フックに引っ掛けます。



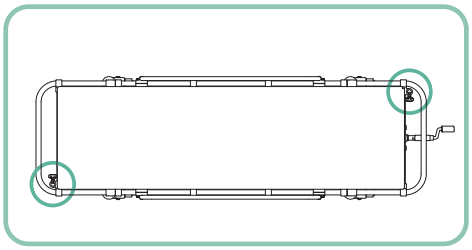
⚠ 警告

●患者搭載時は必ず、サイドレールを
立てた状態にしてください。
（患者が、ストレッチャーから転落する
危険性があります。）

していただく

ガートル棒の取り付け方法

●ガートル棒ホルダーは2箇所あります。

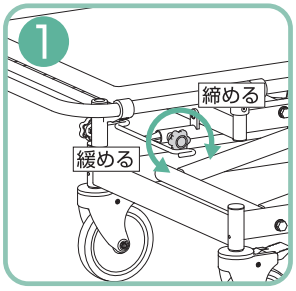


⚠ 注意

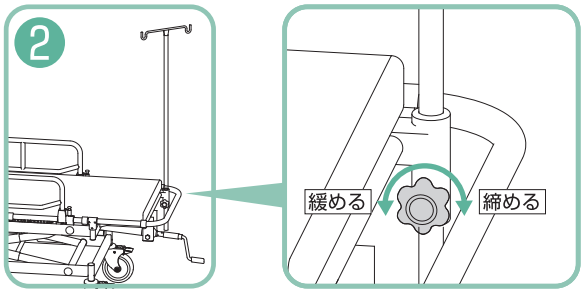
●ガートル棒を取付けた時は、必ずガートル棒が固定されている
か確認してください。
（ガートル棒が急に落下し、ケガ等の原因となります。）

していただく

❶ガートルケースのノブねじを緩め、
ガートル棒を取り出します。



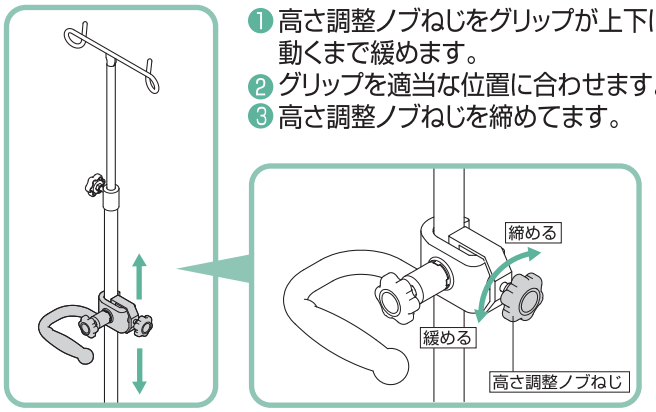
❷ガートル受けにガートル棒を挿し、
適当な位置に合わせガートル受けのノブねじで固定します。



ガートル架の各部機能の使用方法

グリップの高さ調整

●グリップの高さを無段階に調整できます。



❶高さ調整ノブねじをグリップが上下に動くまで緩めます。
❷グリップを適当な位置に合わせます。
❸高さ調整ノブねじを締めてます。

⚠ 注意

●ガートル架のグリップ部を押手以外の目的で使用しないください。
（グリップの高さが急に変わり、転倒やケガ等の原因となります。）

してはいけない

⚠ 注意

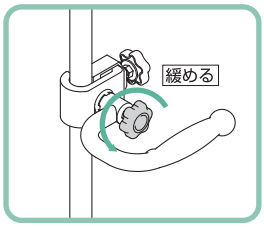
●ガートル架のグリップの高さ調整を行った後は、必ず高さ調整ノブねじが確実に締まっているか確認してください。
（ガートル架のグリップの高さが急に変わり、ケガ等の原因となります。）

していただく

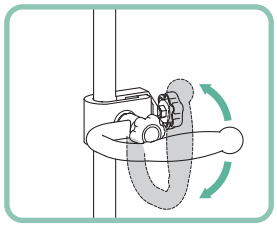
グリップの角度調整

●グリップの角度を4段階（90度ピッチ）に調整できます。

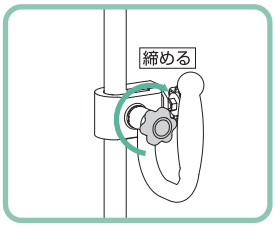
❶角度調整ノブねじを緩めます。

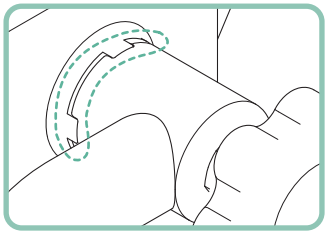


❷グリップを適当な角度に合わせます。



❸角度調整ノブねじを締めます。





⚠ 注意

●グリップが固定溝にはまっていない状態で使用するとグリップの角度が急に変わりケガをすることがあります。

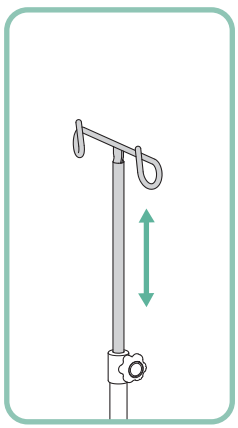
してはいけない

⚠ 注意

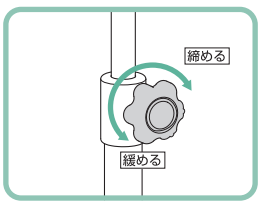
●ガートル架の角度調整後は、角度調整ノブねじが確実に締まっているか確認してください。
（グリップの角度が急に変わり、ケガ等の原因となります。）

していただく

ガートル棒の高さ調整



❶ガートル棒を片手でしっかり持ち、もう片方の手でガートル棒が上下に動くまでノブねじを緩めます。
（ノブねじを外す必要はありません。）
❷ガートル棒を適当な位置に合わせる。
❸ノブねじを締めます。



⚠ 注意

●ガートル棒の高さ調整を行う時は、必ずガートル棒を持って行ってください。
（ガートル棒が自重で落ち、ケガ等の原因となります。）

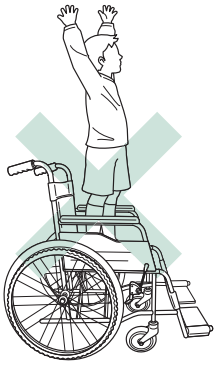
していただく

⚠ 注意

●ガートル棒の高さ調整を行った後は、カードル棒が確実に固定されているか確認してください。
（ケガ等の原因となります。）

していただく

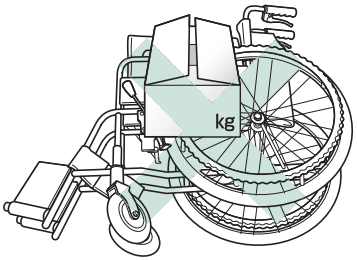
その他の注意



⚠ 警告

●車いすのシートの上で立ち上がらないでください。
（転倒･転落事故等の原因となります。）

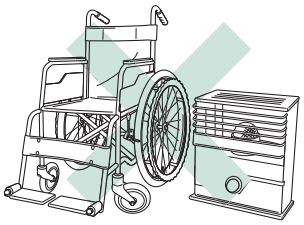
してはいけない



⚠ 注意

●車いすを横向きに倒して、上に物を置かないでください。
（重みで車輪フレームが曲がったりして、故障の原因になります。）

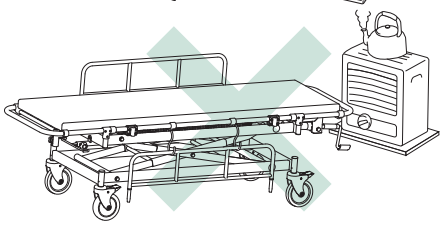
してはいけない



⚠ 注意

●故障、破損防止の為、シャワーなど水や湯をかけないでください。

してはいけない

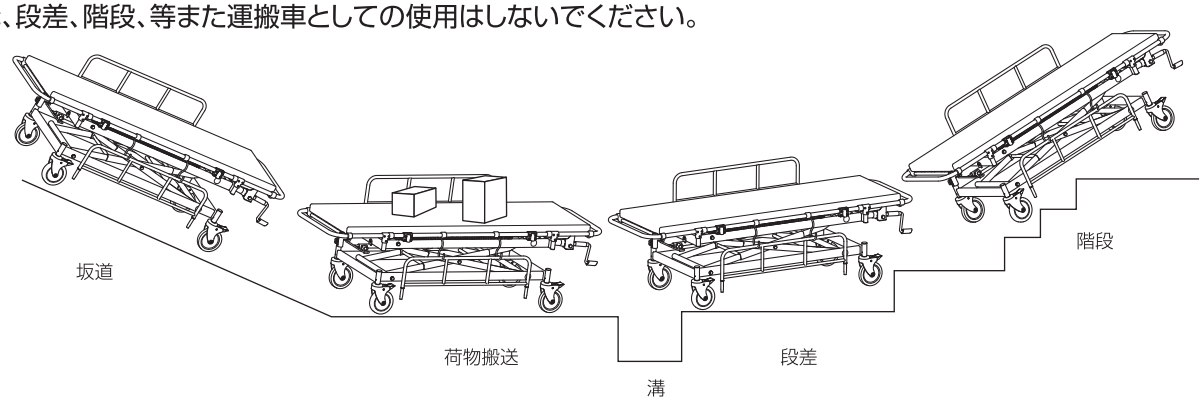


⚠ 注意

●火気の近くに置かないでください。
（タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。）

してはいけない

坂道、溝、段差、階段、等また運搬車としての使用はしないでください。



⚠ 警告

●病人やケガ人の運搬を使用の目的として、その他の目的には使用しない、また病院各種施設内を使用場所とし、屋外、一般道でのご使用はしないでください。

してはいけない

もしこんなトラブルが発生したときは

ご使用されていて「故障かな」と思うトラブルが発生したら、修理を依頼するまえに
下記項目を確認してください。

トラブル	確認点	対処
走行操作が重い	・駆動輪・キャスタに髪の毛、ビニール等が巻きついていませんか	取り除いてください
真っ直ぐ走らない	・キャスタ(前輪)が片べりしていませんか	取扱店にご連絡してください
駐車用ブレーキが効かない	・タイヤは、摩耗していませんか	取扱店にご連絡してください

■故障、異常のある際は、直ちに使用を中止してください。

お手入れの方法

■清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。
揮発性剤(シンナー・ベンジン・アルコール類)では、清掃しないでください。
変色したり、劣化の原因となります。
ホースなどで、直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部に水滴が残り、錆の原因となります。

■タイヤには、ひび割れを防ぐ為に老化防止剤が配合されていますので、次のような環境及び薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。

●オゾン(O_3)　●光線(日光)、熱・伸張等の機械的作用。
●銅・マンガンのような金属の塩、石鹸などの容易に酸化される物質。
●シリコン系ワックス(自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤(錆落とし含む))。

■製品に異常がある場合は、取扱店で、点検・修理をおこなってください。
そのままの状態で使用されますと、使用中に破損し、事故の原因となります。

●タイヤの劣化・ひび割れ
●フレームのひび割れ・曲がり・ガタツキ
●各部固定部品の変形
●駆動輪・キャスタの変形
●ボルト・ナット・ビスの緩み
●ブレーキの効き具合

保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。故障の原因となります。

●雨に濡れるようなところ ●直射日光が当たるようなところ ●湿気の多いところ ●高温室になるところ ●炎天下なところ

保証

●保証期間は、お買上げ後1カ年です。(本体、付属品共)
ただし、次の場合は、保証期間中でも有償修理とさせていただきます。

1. 火災、天災による故障・損傷の場合
2. 取扱説明書に記載の使用方法、ご注意に反するお取扱いによって発生した故障の場合
3. 無断仕様変更及び、改造による故障の場合
4. タイヤの摩耗、シートのやぶれ、ブレーキ、ブレーキゴム
   等の消耗品、及び各部の劣化による故障、損傷の場合
5. 修理に要した運賃等の諸経費

●この保証書は日本国内のみ有効です。

アフターサービス

万一故障の場合は、お買上げいただきました販売店、または松永製作所へ保証書ご持参の上、修理をお申しつけください。

愛の輪 愛のいす MATSUNAGA
株式会社 松 永 製 作 所
〒503-1272 岐阜県養老郡養老町大場484
TEL0584-35-1180(代) FAX0584-35-1270
URL http://www.matsunaga-w.co.jp

点検シート

安全にご使用していただくために、ご自身・お買い求めの販売店(有料)で定期的に点検をしていただくようにお願いします。(長期間ご使用にならなかった場合は、ご使用前に点検をしてください)
点検の結果、異常があった場合はご使用にならず、調整・部品交換をしてからご使用ください。

点検項目 ＼ 年月日 / 点検者						
キャスタ(前輪)	亀裂・キズの有無					
	キャスタの摩耗					
	スムーズな回転					
フォーク	損傷の有無					
	スムーズな旋回					
後輪(車いす)	タイヤの摩耗					
	スムーズな回転					
	ホイールのキズの有無					
	スポークの緩み					
フレーム	各部キズの有無					
	ボルト・ナットの緩み					
	スムーズな折りたたみ					
ブレーキ	ブレーキの効き					
シート	シートの破れ・損傷					
	シート固定ネジの緩み					
フットサポート	固定ボルトの緩み					
	プレートの破損					
その他						

■異常のある際は、ただちに使用を中止してください。